

4

2018

三重病院

ニュースレター

news letter vol.224

- 01 小児にも舌下免疫療法ができるようになりました!
- 02 「臨床研究部からのお便り」—第4回—
医療福祉相談室よりお知らせ
- 03 5病棟の生活のひとコマ³⁵
「やまぼとギャラリー」情報コーナー
異動のごあいさつ
医療安全川柳〈4月〉
- 04 編集長のくつろぎコーナー
外来からのお知らせ／外来診察のご案内



小児にも舌下免疫療法ができるようになりました!

やっとスギ花粉のゆううつな季節が終わりました。今年の花粉症はいかがだったでしょうか。昨年、一昨年に比べて花粉飛散量が多く、今年初めて症状が出た方もいらっしゃるかもしれません。

今や国民の約40%がアレルギー性鼻炎と言われています。その中で代表的なものは、スギ花粉が原因であるスギ花粉症(季節性アレルギー性鼻炎)とダニが原因の通年性アレルギー性鼻炎です。アレルギー性鼻炎の患者さんは増えていて、特に未成年の方の割合が高く、発症は低年齢化しています。

ダニやスギなどアレルギーの原因となる物質(アレルゲン)が体内に入ると、免疫反応によってそのアレルゲンに対する「抗体」が作られます。この免疫反応には個人差があります。作られた抗体が鼻の粘膜で準備状態になると、次にアレルゲンが鼻に入ってきた時に反応してさまざまな化学物質が放出されます。この化学物質の刺激によりくしゃみや鼻水、鼻づまり、かゆみなどが起こり、睡眠障害や集中力の低下をきたし、仕事や勉強、スポーツなど生活にさまざまな影響を及ぼします。

アレルギー性鼻炎の治療法にはアレルゲンを避けること、薬物療法、手術療法、アレルゲン免疫療法があります。薬物療法や手術療法は起こっている症状を軽減する治療法で、即効性はありますがアレルギーそのものを治すことはできません。薬は止めればまた症状が起こります。眠気などの副作用が問題になることもあります。手術を行っても、時間がたつと症状が出てきます。一方、免疫療法は時間をかけてアレルゲンを投与してアレルギー反応を変えていく治療法です。3年

から5年続けることにより、治療をやめたあとも長期にわたり症状を抑えることができます。また、ぜんそくの発症を予防したり、新しいアレルゲンに対する抗体ができるのを予防したりする効果があることも報告されています。

アレルゲンを投与する方法には、皮下に注射する皮下免疫療法と、舌下に投与する舌下免疫療法があります。舌下免疫療法は注射のように痛くないこと、自宅でできること、重い副反応が起こりにくいこと、などのメリットがあり、我が国でもダニとスギが実施されています。今まで12歳以上の方が対象でしたが、ダニは今年から12歳未満のお子さんでもできるようになりました。舌下に治療薬を1~2分間含んで飲み込むことができるお子さんであれば治療可能です。また、スギについてもお子さんへの治療ができるようになるの見込まれています。



免疫療法はすぐには効果が出ないので根気よく続ける必要があります。少なくとも3年以上、毎日服用しなければなりません。効果の程度には個人差がありますが、約8割の方で有効といわれています。また、他のアレルゲンによるアレルギー性鼻炎には効きません。重い副反応は起こりにくいですが、口の中がかゆくなったり腫れたりすることがあります。この治療を受けることができない方もいらっしゃいます。まずは耳鼻咽喉科でお尋ねください。

(耳鼻科 白井 智子・増田 佐和子)